

グローバルな環境での飽くなき学術探究

SGH講演(サイエンスダイアログ)

AKB Future Project 推進委員会

- 実施日 平成 30 年 7 月 19 日 (木)
- 生徒 4、5 回生 (148 名)
- 講師 北海道大学 大学院薬学研究院
アグスティヌス・R・ウリア博士
- 演題 What inspired me to pursue a career in Science ?

サイエンスダイアログについて



による、若手の外国人科学者を派遣し、英語で科学に関する交流を行うプログラムです。今回はインドネシア出身で現在北海道大学にて「海綿動物由来医薬品資源の生合成」

を研究するウリア博士より、科学の分野に進むきっかけとなったインドネシアの多様性に富んだ自然環境や、研究者としての経歴と研究内容について紹介してもらいました。

生物多様性の宝庫スラウェシ島での少年時代

インドネシアのスラウェシ島は象やトラやオランウータンをはじめとする、陸上だけで数百種類の固有の動植物が生息し、海には珊瑚礁が広がり、色とりどりの魚が群れ、深海にはシーラカンスも泳ぐ、独特の生態系が発達した島です。そのような環境の中でウリア博士は成長しました。

グローバルに活躍する研究者になるまで

ウリア少年は高校卒業後に地元の大学に進み、高温の温泉水に生息するバクテリアの独特の性質について研究しました。そして学士号取得後、グローバルな学術探究の旅が始まります。

大学卒業後、ウリア博士はオランダの大学院に進んでバクテリアの研究を続け、その研究を「海洋性古細菌に由来するアルコール脱水素酵素」という修士論文にまとめました。そこでの研究内容が、現在の主要な研究テーマである「海綿動物由来の医薬品資源」につながることであります。

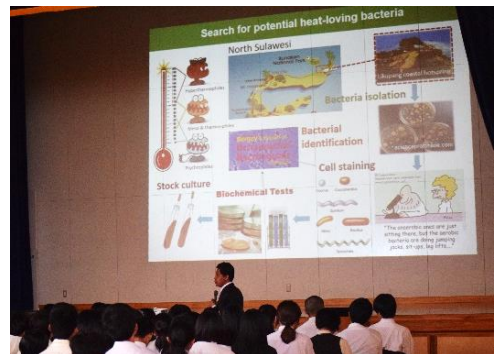
修士号取得後、再びインドネシアに戻り、ジャカルタの研究所において、海綿の中に存在するバクテリアの独特の性質と、それらを DNA クローニング等の培養技術により、抗がん剤や抗 HIV 剤として活用する研究を進めました。

その後、ドイツの大学院にて「天然由来物の生合成の機能と遺伝子解析」という研究で博士号を取得し、取得後は博士後研究員としてアインシュタインの在籍したスイスの研究所で研究を続けました。そして日本学術振興会の研究フェローとして 2017 年より来道し、現在は研究の傍ら、奥様と娘さんと日本の生活を楽しんでいます。

研究者としての刺激を受け続けること

ウリア博士をグローバルな環境での学術探究に駆り立てたのは、幼い頃からの身の回りの自然への興味や、有名な研究者の影響、またご両親や学校の先生の励ましなどでした。また現在でも読書やニュース、博物館を訪れること、同僚の研究者との会話、さらには何気ない散歩から、研究へのインスピレーションを受けているそうです。

本校生徒にとっては、飽くなき学術探究の世界を垣間見る、大変貴重な機会となりました。



《生徒の感想》

- ・本物の科学者のお話を初めて聞くことができた。
- ・理科の授業で実際に習ったことを踏まえた発展的な内容だったので、理解できてよかった。
- ・スライドに写真や図や動画などをたくさん使っていてわかりやすかった。
- ・内容が難しい上に自分の英語力のなさを痛感した。もっと英語をがんばろうと思った。
- ・英語力をつけてからもう一度聞きたい。今度は日本人研究者の講義も聞いてみたい。
- ・自分もこういう道に進みたいので、面白い講義だった。